

2017年度 国内研修 研修成果報告書

昨年に引き続き、今年も秋田県藤里町に高齢者ボランティアサークルごまちゃんらの活動で訪問した。

夜行バスに揺られること10時間、お隣能代市にある奥羽本線二ツ井駅に到着。その後、藤里町の社会福祉協議会のバスで5日間お世話になる土佐旅館まで送ってもらった。

旅館に行く途中、LAWSONによってもらったが、二重扉になっている入り口をみて秋田に来たことを実感した。

旅館で荷物を置いたあと、1週間お世話になる藤里町の社会福祉協議会に挨拶に行った。

途中、副代表の頭に屋根から落雪。

秋田の洗礼を受けていた。

社協に着くと去年と同じく、社協のみなさんに出身地と名前の自己紹介をした。

今年のゴマは東京都出身が多かったが、1年生で沖縄出身の子がいたので期待通りの「ええー!?」のリアクションをいただけた。

午後からは藤里町のNPO「元気塾」の藤原さんに「藤里町移住定住支援事業」の取り組みを教えていただいた。

藤原さんは、私の地元神奈川県藤沢市で英語の先生をされていて、定年後Uターンしたそうだ。

移住・定住で1番大事なことは移住先の住民との人間関係だと教えてくれた。

しかし、藤里町の住民は内向的な人が多いので、なかなか新規移住者との関わりが難しいのというUターンだからわかる部落の特徴も教えてくれた。

元気塾は民泊も運営しているらしいので、夏には民泊を利用して地域にもっと溶け込めたらいいなと感じた。

続いて、藤里町の一人暮らし高齢者宅を訪問し、ゴマちゃんらしい傾聴ボラを行った。

2人1組になって、受け入れを許可してくれた5つの家にお邪魔した。

私が訪問したのは、藤里町と能代市の境目にあり、部落から少し離れた家だった。

家に着くと、主人の成田さんが1人で屋根下の雪かきをしていた。

秋田にきて知ったことだが、通路以外に、屋根の下の雪も投げなければいけないのだ。

なぜなら、屋根から落ちた雪が、重しとなり窓を割ったり、給湯器を潰してしまうからだ。

少しでも雪かきを怠ると、次の日には屋根に届いてしまいそうなほど雪が積もるので、独居高齢者のしかも女性でも雪かきをしなければならない。

2人で雪かきを手伝って15分、なんとか昨夜積もった分は取り除けたところで、家に招いてもらい傾聴スタート。

まず、お礼を言われた。

「この調子だと明日も雪かきしなきゃならないところだったから手伝ってもらって本当に助かったよ」と、秋田弁で何度も言ってくれた。

その日の夜もかなり降ったので、お手伝いできて本当に良かった。
成田さんは、自動車の免許を持っていないので買い物があるときは隣の能代市まで自転車を漕いで行くそうだ。
しかし、冬は雪のせいで自転車が使えないので社協さんにおつかいを頼んでいるらしい。本当に助かっていると言っていた。
また、週末には秋田に住む息子さんが泊りがけで様子を見にきているそうだ。
それでも、帰り際には「毎日でもきてくれればいいのにね笑」とまた何度かおっしゃっていたので、一人暮らしの寂しさを感じる事ができた。
昨年の独居訪問の際も「また来てくださいね」と言ってもらったが、この一言を貰えると、また来年もボランティアに行こうと思える。
決して楽しいことだけではないボランティア合宿だが、13年間もごまちゃんが続けているにはこういうきっかけがあったのだろうと思う。

2日目～

この日は、午前中は藤里町金沢地区（旧北部地区）の交流会に参加。
練習してきた秋田の踊り「よっちょれ」を披露し、今年も大きな拍手をいただいた。
藤里町社会福祉の引きこもり就労支援の拠点である「コミット」その食堂のうどんをご馳走してもらい、地区の皆さんとお話した。
昔の遊びや、歌、農具、藤里の自然など話が途切れることはなかった。
そして、なんとこの交流会が地元紙「北羽新報」の記事になった。
自分は写真には映れなかったが、自分の活動が認められたようで嬉しかった。
午後は社会福祉協議会のデイサービスにて、よっちょれの披露と傾聴ボラ。
昨年は秋田の言葉が分からない、不安と慣れない土地での緊張感で沈黙が多かったのだが、今年は2時間があつという間に過ぎてしまった。
今年の1年生は積極的に利用者さんに話を聞きに行き、中には複数人の話を同時に聞いている者もいたので、来年が楽しみだ。

3日目～

午前、藤里町の高齢者の引きこもり予防などを行う「町自慢クラブ」の中のど自慢に参加させていただいた。
日頃、ごまちゃんは八王子のデイサービスで傾聴ボラをさせてもらっているのだが、元気な高齢者の方々と関わるのは新鮮だった。
皆さん歌がかなりお上手でした。
演歌を歌われるようです。
足腰が、少し悪い方もいらしていたがその後食事をご一緒させていただくと皆さんよくお食べになっていました。

それがやはり元気の理由なのかと思った。

また、会場となった農村改善センターでは、地元の高齢者の方が豆腐作りもしているようで、とにかく高齢者の交流の場が多いなと感じた。

午後は雪中キャベツ掘りを、農家のあやさんの協力のもと体験させていただいた。

1 メートルほど積もった雪を掘って掘ってまた掘って、キャベツを探さなければならない。しかも、掘ってもキャベツがそこにはない時もある。

見つけたら、その周りをどンドン掘る作業なのだがこれを一人でやっていらっしゃるのだと言葉では分からない苦労を実際に体験させてもらった。

社会福祉協議会の新しいカリキュラムとしてのキャベツ掘り体験だったのだが、学生は皆満足したようだ。

しかも採りたての新鮮キャベツまでもらったのだから文句なしだ。

しかし、掘ったキャベツのほとんどがシャベルで削れて傷だらけになってしまったので、あやさんへの配慮も必要なのではないかと感じた。

4日目～

この日は午前中、社会福祉協議会の会長に「藤里方式」のお話をさせていただいた。

そもそも、傾聴ボランティアのごまちゃんが藤里町に訪れることになったきっかけはこの「藤里方式」なのだ。

簡単に言うと、国が始めた地方創生をその数年前から実施していたのが藤里町の「藤里方式」である。

まちづくりの先駆けとして、いろんな地域から見学者が訪れるのだそう。

午後は、ユニカールという、屋内で行うユニバーサルなカーリングを体験させていただいた。ここでも元気な高齢者を見て、生きがいのひとつとしてのスポーツのあり方を体感してきた。

5日目～

午前は毎年恒例の熟年バレー対決。

地元の高齢者チームとごまちゃんが本気で対決するのだが、これが本当に強い。

昨年までは一勝もできなかったのだそう。

最年少でも60代後半のチームなのだが、動きが想像できないほどに若い。

昨日に引き続きスポーツの有用性を体感した。

午後は、羊の飼育場見学。

これは、地域の酪農家が高齢化のために一人で育てることが厳しくなった牛などを春～秋で放牧させるための施設でもあるそうだ。

子羊にミルクを飲ませる貴重な経験をさせてもらった。

本当に可愛かった。

羊は一匹一匹声が違うのだ。

その日の夜は、今までお世話になった藤里町の皆さん

元気塾、金沢地区、町自慢クラブ、キャベツのあやさん、ユニカール、熟年バレーから何人か来ていただき、持ち寄ってもらったご飯で交流会をした。

今回初めて、こういった交流の場を設けてもらったのだが、やはりプライベートな話ができる分より近いコミュニケーションが取れ、藤里町と一層近づけたのだと思う。

藤里町の特に熟年バレーの皆さんは、この活動を是非続けて欲しいとおっしゃってくれた。

6日目

最終日は、社協の生活支援施設「ぶなっち」に訪問。

昨年お話しした、方が自分の名前を覚えてくださっていて感動した。

来たよかったと最終日にして素直に感じた。

もし、いなかったら「あー、今年は来ていないのか」で終わったかもしれないが、そうならなくてよかったと思う。

その後、バスで新宿に帰ったが、なぜか秋田より新宿の方が寒かった。